

平成 28 年 2 月 9 日

UD21 にいがた定例会議

日 付：平成 28 年 1 月 22 日(金)

場 所：ホンマ健康ランド

参加者：秋元、磯野、江畑、熊木、小林、佐藤、滝沢、林、早見、渡辺、轡田、神田

議事内容

1. 投票所のUD化を全国に先駆けて、新潟発で提言する件

- 現状おこっている問題を列挙し対応策を考えるのではなく、「投票所のあるべき姿」を考えて実際の現場はどうなっているかを調査・対応していく。
- 若者からお年寄りまで全ての世代にやさしい場所が必要。特に「アクセシビリティ」「認知性」に配慮が必要。
- ただ選挙に行くよう促すのではなく、以前と比べ改善された点を明示し、投票しやすくなった事を伝えることが大切。
- UD化を進めるにあたり、第一段階として対象者を高齢者・身体障害者（知的・精神障がいを除く）が問題なく投票行為ができるための提言。第二段階はもう少し幅を広げての提言をする。
- UD化の範囲は、駐車場から投票し、**駐車場に戻る**までに限定する。
- 3年前の調査では、県内の6割の投票所が靴を脱ぐ。
- 選挙管理委員会は投票所の設置をする際に公職選挙法を基準にしていることは当然である。しかし、設置方針はあるが、設備基準はないため各自治体に委ねられていると考えられる。設備基準に関して詳しく調べる必要がある。
- 投票所の設備等に関する統一マニュアルを作成する。
- 県の市町村課は、すでに動き始めているので急ぐ必要あり。

2. 介護ロボット関連産業創出事業（新潟県からの委託事業）の件

江畑さん：県内の企業や施設への訪問、セミナーへの参加などの結果、ロボットが世界のイノベーションの焦点になっていることが分かった。県内の企業は高い技術を持っているが、ロボット産業に対してあまり前向きではない。県内企業の参画を増やすことで将来への可能性が開けると考えられる。

介護ロボット産業を新潟県に創出

県内企業の実力を知るための調査が重要になる。

県内企業にはロボット産業に進出する気はないが技術的には進出できるものを持っている企業や認識していないだけでロボット産業に進出している企業も多くある。

企業の実力調査およびロボット産業進出を促す宣伝を行い、今後の開発につなげられるようにする。

新しい技術を1から開発してもらおうとすると難しいが、アイデアを持っていき、具体的に何を作ってほしいか依頼をすればすぐに作れるだけの技術はある。グランドデザインやアイデアをしっかりと考え説明できる人がいれば新しいロボットをすぐに試作することが可能。説明を行うことができるコーディネーターが必要になる。

3. UD21にいがたのHP上の「活動」状況のアップ方法について

「現在の活動（ブログ）」に毎月の定例会の報告を行い、「これまでの活動」に議事録を掲載する。

議事録担当：ストックバスターズ

作成した議事録案を秋元・渡辺・早見・佐藤に送信し補足・修正し、秋元にもどす。

秋元は、確認整理して議事録担当に送信。議事録担当からHP管理者（ココモ滝沢）に送信して、HP管理者（ココモ滝沢）は、「これまでの活動」の該当箇所に議事録を掲載する。

「活動予定（スケジュール）」のアップ方法

担当・サトミ産業（佐藤）

「活動予定（スケジュール）」のグーグルカレンダーに定例会議の予定等、当法人全体にかかわる活動予定をアップロードする。

*各企業でUD関連イベントがある場合は、佐藤に連絡を入れアップロードしてもらおう。

ただし、各企業が行うイベントで、UD関連ではないが当法人を通じて情報提供することが望ましいと判断した場合には、担当企業が個々にアップロードする。

月ごとの「現在の活動（ブログ）」報告アップ担当企業は以下の通り。

1月：青芳製作所（秋元） 2月：本間組（渡辺） 3月：きむら食品（早見）

4月：サトミ産業（佐藤） 5月：ストックバスターズ（響田） 6月：新潟大学（林教授）

7月：今泉テント（熊木） 8月：ココモ（滝沢） 9月：大日本印刷（磯野）

10月：SPRING 総研（江畑） 11月：北越工業（山倉） 12月：高倉県議

*アップ方法は「UD21にいがた ブログ更新マニュアル 投稿編①②③」参照

4. 畑の三役さん（UD21 認定商品）のその後（担当：ストックバスターズ）

県内のグリーン産業とストックバスターズがコラボして公園などの雑草取りの道具を開発中。

現状の草取り作業は、高齢の作業者が今まで通りの「カマ」を使って行われているが、効率が悪い。

5. 赤ちゃんの駅（オムツ替え・授乳施設）（担当：今泉テント）

屋外タイプは出来ているが、室内タイプの要望もあり、調査をはじめます。

また、マンションなどの駐輪場のUDの調査も始めている。